

---

# 統合分野

---

看護の場の広がりとは職種との関わりの広がりを学習する

さらに既習した学習内容を看護実践の中で統合・活用できることをめざす

授業科目	在宅看護概論		講師名	専任教員	単位数	1 単位
					時間数	15 時間
					年次 学期	2 年次 前期
学習目標	1. 在宅看護の目的と特性が理解できる 2. 在宅看護の対象者が理解できる 3. 地域包括ケアにおける看護師の役割が理解できる 4. 継続看護と多職種連携が理解できる					
回数	主題	学習内容および方法			授業形態	
1 回	在宅看護の目ざすもの	1. 在宅看護の概念 1) 在宅看護の目的 2) 在宅看護の特性			講義	
2 回	在宅看護の対象者	1. 対象者の特性 2. 家族介護者の理解と健康支援 1) 家族システム 2) 家族のアセスメント 3) 家族への支援			講義 (VOD)	
3 回	在宅療養の支援	1. 在宅看護の提供方法 2. 療養の場の移行 1) 患者家族の意思決定支援と調整 2) 退院支援・退院調整 3) 入退院時における医療機関との調整			講義	
4 回	在宅看護にかかわる法令・制度と活用	1. 在宅看護の法的基盤			講義	
5 回		1) 在宅看護にかかわる法令・制度 2) 介護保険制度 3) 訪問看護の制度 4) 訪問看護サービスの提供 5) ケアマネジメントと社会資源の活用				
6 回	地域包括ケアにおける看護師の役割	1. 社会の動向と地域包括ケア 2. 多職種連携 3. ネットワークづくり			講義 (VOD)	
7 回	在宅療養における安全確保	1. 在宅看護におけるリスク 2. 環境の整備による安全性の確保 3. 感染防止 4. 災害に対する準備と対応			講義	
7.5 回	在宅看護の実際	1. 対象者のニーズに応じた訪問看護の提供			講義	
評価方法	レポート					
テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実際 医学書院					
備考						

授業科目	在宅看護援助技術	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	16/30 時間
				年次 学期	2 年次 前／後期
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	訪問時の基本姿勢とコミュニケーション	1. 信頼関係の形成・人間関係作り 2. コミュニケーション・面接技術 1) 初回訪問にむけて 2) アセスメントの視点 3) 訪問時の基本マナー		講義	
2 回	初回訪問時のアセスメントと実際	1. 初回訪問時のアセスメント 2. 事例を通じた初回訪問の実際 1) 計画立案		講義 (VOD)	
3 回		2) 訪問時の基本マナー 3) 初回訪問時のアセスメント		講義	
4 回	在宅における日常生活援助技術	1. 在宅療養者の日常生活援助 洗髪		講義 (VOD)	
5 回	在宅看護過程の展開	1. 在宅看護過程のポイント		講義	
6 回		2. 在宅療養者の事例展開①		講義	
7 回		3. 在宅療養者の事例展開②		講義	
8 回	試験				
評価方法	筆記試験とレポートによって行う				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院				
備考					

授業科目	在宅看護援助技術	講師名	非常勤講師	単位数	1 単位
				時間数	14/30 時間
				年次 学期	2年次 前/後期
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。 3. 在宅医療機器の管理方法と療養者への援助を理解する。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	生活支援の方法と技術	1. 食事 1) 嚥下に関するアセスメント 2) 介助のポイント 2. 排泄 1) 排尿のアセスメント 2) 排尿の工夫 3) 排便のアセスメント 3. 清潔・皮膚のケア		講義	
2 回	在宅における観察技術	1. フィジカルアセスメント 2. バイタルサインのポイント 3. 呼吸・循環のアセスメントポイント		講義	
3 回	在宅におけるリハビリテーション	1. 在宅におけるリハビリテーション		講義	
4 回		1. 在宅におけるリハビリテーション演習 移動・移乗など		演習	
5 回	在宅における排泄管理	1. 間欠導尿・膀胱留置カテーテル 2. 人工肛門		講義	
6 回	在宅における医療管理	1. 在宅酸素療法・人工呼吸器・NIPPV		講義	
7 回	在宅における栄養管理	1. 経管栄養（胃瘻含む） 2. 在宅中心静脈栄養（HPN） 3. 在宅における服薬管理と薬物療法		講義	
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院				
備考	実習室での演習の服装は、通常はジャージとポロシャツ。髪はまとめる。名札着用。 白衣着用のときは指示する。				

授業科目	在宅で療養する対象の看護	講師名	非常勤講師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 前期
学習目標	1. 在宅で療養する対象者の多様性を理解できる。 2. 在宅で療養する対象者及び家族のアセスメント・支援内容を理解できる。 3. 在宅で療養する対象者へ地域の社会資源を活用し看護を提供する方法を理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1 回	在宅で療養する対象者への看護師の関わり	授業の進め方, グループワークについて 在宅で療養する対象者への看護師の関わる法的な背景を理解する レポート①: 訪問看護師に期待すること			講義
2 回	在宅で療養する対象者の特徴	在宅療養する対象者の疾患, 家族構成・社会資源の活用方法について理解する			講義
3 回	在宅での看取りの実践	DVDを鑑賞し在宅看取りにおける困難感や在宅での支援を検討する レポート②: 在宅で看取りを行う家族に対する看護師の役割を考える グループワーク			講義 演習
4 回	在宅療養における家族看護	家族看護の概念を理解する。家族役割を理解する。			講義
5 回	退院支援と在宅看護 がん終末期の看護	退院調整の概念・退院に向けた支援を検討する。在宅で療養するがん終末期の病態。支援内容を理解する。 グループワーク			講義
6 回	認知症・心疾患の看護	在宅で療養する認知症・心疾患を有する対象者の病態及び支援内容を理解する			講義
7 回	神経難病・呼吸器疾患の看護	在宅で療養する神経難病・呼吸器疾患の対象者の病態及び支援内容を理解する			講義
8 回	在宅での看護の展開①	事例をもとに脳梗塞後遺症の対象者の情報採取方法を検討する ・グループワーク			演習
9 回	在宅での看護の展開②	事例をもとにアセスメントを行い看護上の課題を検討する グループワーク			演習
10 回	在宅での看護の展開③	事例をもとに看護計画を立案する			演習
11 回	在宅看護での入浴援助	自宅の浴室で片麻痺の対象者の入浴介助を実践する (その他、アネロイド血圧計の測定演習を含む) 1G/15分			演習
12 回	在宅看護での認知症ケアの実際	DVDを鑑賞しレポートを作成する レポート③: 地域で生活する認知症高齢者に必要な 支援とは			講義
13 回	演習の振り返り	演習をまとめ、発表できる資料を作成する			演習
14 回	演習結果を発表	演習内容を発表する			講義発表
15 回	試験	在宅で療養する対象者の理解のまとめ 終講テスト 回答例の提示・解説			
評価方法	レポートの提出状況・授業の参加状況 30% 終講テスト 70%				
テキスト 参考書等	テキスト: 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 参考図書: 関連図で理解する 在宅看護過程 正野逸子・本田彰子 メジカルフレンド社 その他、随時紹介する				
備考	グループワークは1Gあたり8名とする メンバーは固定する 授業の内容は、教室の予約状況などにより前後する可能性あり				

授業科目	在宅看護論演習	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	3 年次 前／後期
学習目標	1. 在宅看護におけるさまざまな事例から看護過程の展開が理解できる。 2. 在宅看護における生活支援が理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	在宅における看護過程の展開	1) 在宅看護過程の特徴 2) 情報収集・アセスメント 3) 目標・計画 4) 実施・評価		1 回 講義 (VOD)	
2 回	医療管理を必要とする難病（筋萎縮性側索硬化症）の療養者の看護	1) 情報収集の視点		2 回 講義	
3 回		2) 日常生活の援助 清潔、排泄など コミュニケーション		3 回 講義 (VOD)	
4 回		3) 医療処置		4 回 講義	
5 回		4) 吸引、胃瘻、呼吸管理など		5 回 講義	
		5) 介護者への支援			
		6) 多職種との連携			
		7) 社会保障制度 社会資源の活用			
		8) 災害時の対応			
6 回	脳卒中後遺症のある療養者の看護	1) 情報収集の視点		6 回 講義	
7 回		2) 日常生活の援助 誤嚥予防、褥瘡予防		7 回 演習 (VOD)	
8 回		3) リハビリテーション		8 回 演習 (VOD)	
9 回		4) 住宅環境の整備		9 回 演習 (VOD)	
10 回		5) 介護者への支援		10 回 講義	
		6) 退院支援・退院調整			
		7) 社会資源の活用 サービスの導入			
11 回	在宅での生活を希望する精神障害者の看護	1) 情報収集の視点		11 回 講義	
12 回		2) 社会生活に向けた援助		12 回 講義 (VOD)	
13 回		3) 日常生活の援助		13 回 講義 (VOD)	
14 回		4) 服薬管理		14 回 講義 (VOD)	
15 回		5) 定期受診		15 回 講義	
		6) 社会資源の活用			
		7) 就労支援			
評価方法	レポート				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
備考					

授業科目	看護管理	講師名	看護師	単位数	1単位
				時間数	15時間
				年次 学期	3年次 前/後期
学習目標	1. 看護の質を保証するためのマネジメントの基礎について理解する。 2. 看護管理の目的と機能について理解する。 3. 組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1回	1. 看護とマネジメント	1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント 3) 看護におけるマネジメントの考え方		講義	
2～3回	2. 看護ケアのマネジメント	1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践 6) 日常業務のマネジメント		講義	
4～5回	3. 看護サービスのマネジメント	1) 看護サービスとは 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービス提供の仕組みづくり 4) 人材のマネジメント 5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品・情報のマネジメント 7) 組織におけるリスクマネジメント 8) サービスの評価		講義	
6回	4. マネジメントに必要な知識と技術	1) マネジメントプロセス 2) 組織原則 3) リーダーシップ 4) タイムマネジメント 5) ストレスマネジメント		講義	
7回	5. 病院経営と看護管理	1) 病院と経営 2) 看護師が参画する病院経営 3) 千葉医療センターの看護管理の実際		講義	
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 看護管理 医学書院				
備考	・授業中はグループワークを取り入れることもあるので、看護管理に関する各自の 臨地実習体験を積極的に意見交換する。				

授業科目	医療安全	講師名	専任教員 看護師	単位数	1単位
				時間数	30時間
				年次 学期	3年次 前期
学習目標	1. わが国の医療安全対策や医療現場で取り組まれている安全対策を理解する。 2. 事故発生のメカニズムと発生防止の考え方を理解する。 3. 自己の力で医療事故を回避する方策が考えられる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1回	医療事故の背景、成り立ち	1. 医療安全文化の流れ 2. 医療事故・問題点・再発防止策 3. 医療事故と看護業務		講義	
2回	医療事故に関する用語・取り組み	1. 医療事故等の定義・分類 2. 医療安全に関する取り組み		講義	
3回	事故発生のメカニズムと防止対策	1. 当院における現状（医療安全） 医療事故防止・教育 2. 組織的な安全管理体制への取り組み		講義	
4回	与薬に関するインシデント	1. 与薬に関するインシデントについて		講義	
5回	療養上の世話の事故防止	1. 転倒・転落 2. 誤飲・誤嚥 など		講義	
6回	共通する間違いと発生要因	1. 看護業務と事故発生要因 2. 業務領域をこえて 共通する間違い 発生要因		講義 (VOD)	
7回	医療安全とコミュニケーション	1. コミュニケーション不足による事故 2. 事故防止のためのコミュニケーション (医療者間、患者)		講義 (VOD)	
8回	報告制度	1. 事例を通して 要因・対策 医療事故等の報告制度		講義 (VOD)	
9回	事故分析 KYTの実践	1. 事故分析 2. 事故の構造、事故分析KYTの実践（演習） 3. 事故対策		演習 (VOD)	
10回	RCA分析	1. RCA分析の考え方と実際（演習） 2. RCA分析 GW演習		演習 (VOD)	
11回	院内感染の環境と対策	1. 当院における現状（院内感染防止対策） 感染制御の組織化、感染対策マニュアル サーベイランスの実施とアウトブレイクの察知、 組織的な教育		講義	
12回		2. 感染の危険を伴う病原体への曝露		講義	
13回	院内感染の防止	1. 感染予防対策の必要性		講義	
14回		1. 事例を通しての演習 インフルエンザが発生したときの対応		講義	
15回	試験			演習	
評価方法	筆記試験				
教科書 参考書等	系統看護学講座 医療安全 医学書院				
備考					



授業科目	国際・災害看護 (国際看護)	講師名	非常勤講師	単位数	1単位
				時間数	10/30時間
				年次 学期	3年次 後期
学習目標	1. 国際的な健康への取り組みが理解できる。 2. 日本における異文化理解と看護への応用が考えられる。 3. 世界の現状と健康課題を理解し、具体的な取り組みが理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1回	1. 国際的視野を広げる	1. 国際的な視野を持つことの意味 2. SDGs と人々の健康 3. 国際協力の仕組みと国際機関 4. 新興感染症		講義	
	2. 多様性との共存と異文化理解	1. 看護師不足と国際労働 2. 医療ツーリズム		講義	
2回	3. 異文化理解と国際看護活動	1. 文化的存在としての人間の理解 2. 文化を考慮した看護 3. 国際看護活動に必要な能力		講義	
3回	4. ジェンダーへの理解	1. FGM への理解 2. ジェンダーの多様性 3. ダイバシティへの発展		講義	
	5. 感染症とスティグマ	1. 国内外の感染症の現状分析と課題 2. 偏見と差別がもたらすもの		講義	
4回	6. 人間の安全保障	1. 国際看護活動の実際 2. 人道援助とは		講義	
	7. プライマリヘルスケア	1. 世界の貧困と経済格差 2. メディアリテラシー 3. 看護の発展と国際看護の課題		講義	
5回	まとめ			講義	
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 災害看護・国際看護学 医学書院 近藤麻理著 知って考えて実践する国際看護 第2版 医学書院				
備考	国際看護学を身近に実践的に考えられるよう工夫し、グループワークを多く取り入れて講義を進行します。				

授業科目	国際・災害看護 (災害看護)	講師名	看護師	単位数	1単位
				時間数	20/30時間
				年次 学期	3年次 後期
学習目標	1. 災害の定義および災害医療の概要を理解する。 2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する。 3. わが国における災害対策と災害救助活動を通して、国際協力の必要性を理解する。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1～9回	1. 災害看護の概要	1. 災害と災害医療 2. 災害の種類と特徴 3. 災害医療と災害看護 4. 我が国における災害対応		講義	
	2. 災害医療の基本	1. 式命令系統 (CSCATTT) 2. 災害医療と救急医療の違い		講義	
	3. 災害への対応体制	1. 災害発生時の対応 2. 特殊災害 (NBC) 3. 災害派遣医療チーム (DMAT) 4. 国際貢献		講義	
	4. 災害サイクルから見た必要な医療・看護 (急性期)	1. 災害サイクルとは 2. 災害のサイクルから見た必要な医療・看護 3. 災害時要援者 4. 災害時の3T 5. 観察と応急処置		講義	
	5. 災害サイクルから見た必要な医療・看護 (亜急性期・回復期)	1. 亜急性期以後の環境整備 2. 災害関連死の予防と心のケア 3. 地域医療体制		講義	
	6. 防災の知識	1. 災害訓練の実際 (4h) 搬送方法 トリアージ法 傷病者への対応		講義	
	7. AEDの操作	1. AEDの操作方法		演習	
	8. トリアージ搬送の方法	1. トリアージ・緊急時の搬送方法		演習	
10回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 災害看護・国際看護学 医学書院				
備考					

授業科目	臨床看護技術演習	講師名	専任教員 看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次	3 年次
				学期	前／後期
学習目標	<p>I. 複合的な条件の事例に必要な看護を実施できる。</p> <p>1. 複数患者の援助の優先順位、ケア時間調整、ケアの変更を行い援助できる。</p> <p>2. 患者の状態から緊急性の有無を判断し、必要なケアを正しく判断できる。</p> <p>II. 診療の補助技術の基本的知識を習得し、一部実施体験できる。</p> <p>1. 褥瘡のアセスメントができる</p> <p>2. 人工呼吸器の作動を体験する。</p>				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	複数患者（2 名）の援助の優先順位、（挨拶と確認）	<p>1. 臨床看護技術演習とは</p> <p>2. 1 日行動計画の優先度の決定</p> <p>3. 事例提示</p> <p>4. 援助方法を計画し、計画書を作成</p> <p>演習：コミュニケーション・観察</p>		講義（VOD）	
2～3 回	分析・援助計画作成	<p>1. 計画書の検討</p> <p>2. 患者役、看護学生役で援助の展開を実施</p> <p>3. 計画書の変更・援助の実施</p> <p>4. デブリーフィング</p>		演習	
4 回	褥瘡のアセスメント	<p>1. 褥瘡発生の要因</p> <p>2. 褥瘡アセスメントのしかた</p> <p>3. 褥瘡アセスメントの実際</p>		演習	
5 回	人工呼吸器作動	<p>1. 人工呼吸器のしくみ</p> <p>2. 人工呼吸器の作動</p> <p>3. 人工呼吸器設置中の患者の看護</p>		演習	
6 回	輸液管理	<p>1. プライミング</p> <p>2. ミキシング</p> <p>3. 静脈内留置針の挿入</p>		演習	
7～8 回	カテーテル管理	<p>1. バルーンカテーテルの挿入・管理</p> <p>2. ドレーンカテーテルの管理</p>		講義（VOD）	
9～11 回	複合的な条件の事例事例提示	<p>1. 援助計画作成・実施</p> <p>2. 計画修正・実施</p> <p>3. 事例提示</p> <p>4. 援助方法を計画し、計画書を作成</p> <p>5. 計画書の検討</p> <p>6. 患者役、看護学生役で援助の展開を実施</p> <p>7. 計画書の変更・援助の実施</p> <p>8. デブリーフィング</p> <p>演習：酸素・ドレーン・管理・輸液管理</p>		演習	
12～14 回	突発事項への対応優先順位演習	<p>1. 援助計画作成・実施</p> <p>2. 計画修正・実施</p> <p>3. 事例提示</p> <p>4. 援助方法を計画し、計画書を作成</p> <p>5. 計画書の検討</p> <p>6. 患者役、看護学生役で援助の展開を実施</p> <p>7. 計画書の変更・援助の実施</p> <p>8. デブリーフィング</p>		演習	

15回	技術試験	複合的な課題に対する実技試験	
評価方法	臨床を想定した事例による技術試験・レポート		
テキスト 参考書等	パワーポイントのスライド・資料を配布する。		
備考	<p>看護技術の統合的評価をし、課題を見出す。また実務に即した複合的な援助技術を要する対象への個別的な援助技術を学ぶ。</p> <p>講義中に適宜ディスカッションの時間を設ける予定である。</p> <p>事前学習をして授業に臨む。事例課題は必ず学習して臨む。</p> <p>演習、実習の際は事前に持ち物や服装について指示する。身だしなみに留意する。</p>		